D 4　　肩パッドの被服機構学的研究（１）―　アンケート調査　―

共栄学園短大　○庄司宜美子　　日本女大家政　　大野静枝
青葉学園短大　　石井照子

目的：近年、肩パッド付きの洋服が流行し　外衣のみならず、中衣のブラウス・セーターにも使用される場合が多くなっている。肩パッドの研究については田部井の構成学的な見地からの報告がみられるが、機構学を含めた全般的な研究は少ないように思われる。そこで、私達はまずはじめにアンケート調査を行い、肩パッド付きの洋服についての意識と実態を検討した。

方法：女子学生と母親　1035名を対象とし、1989年7月～10月に　集合並びに留置法により調査を行った。主な調査項目は肩タイプの意識、肩パッドの取り外し・厚さ調節の有無とその理由、着心地、取扱いなどである。

結果：肩パッド付きの洋服について「シルエットがきれい」など外観には好印象をもっているが、「パッドが重なると邪魔」「取り外しがきかないものがあり不便」と考えている人が約60％であった。一方、肩パッドを取りたいと思ったことのある人は85％、実際に取ったことのある人は71％、厚さの調節をしたことがある人は32％であった。その理由として　「肩に合わない」「肩だけが目立つ」「肩パッドが重なる」などが挙げられた。したがって　肩パッドが体型補正的な役割をはたしている反面、着用に支障となる場合も多いことが推察される。

肩のタイプ別にみると　なで肩に比べいかり肩の人は　肩パッドを取りたいと思ったことがある人が多かった。また、肩パッドを取ったり、厚さを調節したことがある人は　年代の高い人ほど多かった。肩パッドの流行については　年代の低い人ほど　定着すると考えている人が多い傾向にあった。